

教育シン・カ論

コロナから問う

▶2

生き残るための教育とは

で語り直す。正解なき人生で誰の笑顔が一番大切にすることを考えたのではないのでしょうか。

これからは「めっちゃくちや変化する世界」になります。そこで生き残るための教育は、意外と本質的なものではないでしょうか。つまり、考える力と、考えたことを言葉にする力を身に付ける、そして、体験総量を増やすということですね。

とだけ遊んでけんかをしたか、障害のある人や外国の人と出会ったか。挫折も含めた多様な豊かな経験が足りないといふ大人になっ

花まる学習会代表 高浜正伸さん



た時、苦手に感じた取り、乗り越えられなかつたりしてしまふ。この時代も同じです。

「より良い枠組みを選ぶために良い成績を取る」という従来の考

え方では、コロナ禍のうではなく、働く頭をつくるのが大事。そして、生き方は自分で決めなくてはいい

き」を大事にし、それで飯を食うために何が必要かを考える。それには「哲学」が必要ですが、何にでも効率を求める雰囲気は今はその時間がありません。

実際に食べていくには実力を付けなければいけません。しかし、まずは自分の頭でどう考え、周囲の期待や常識を取り去った上で「やっぱりこれがやりたい」というビジョンを明確に持つことが大事です。コロナ禍は「不良」でない人にも「当たり前」を疑う哲学の機会を与えてくれたのではないのでしょうか。

1959年、東京都生まれ。幼少から中学まで花まる学習会代表。3浪して東京大学大学院修士課程修了。思考力や野外体験を重視する独自の教育法で注目される。算数オリンピック委員会委員も務める。

成功した人の共通点は高校、大学で「不良」だったということらしい。周りの言うことが絶対とは思わず、従わない。学校に行かず街でフラフラしながら、自分のペースを取り戻し、世界を自分の言葉

で語り直す。正解なき人生で誰の笑顔が一番大切にすることを考えたのではないのでしょうか。